

ブルーカーボン高精度データ把握・管理システムの開発

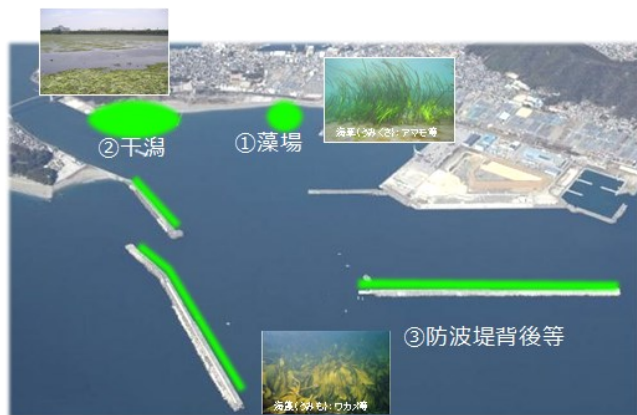
- 国土交通省では、温室効果ガス排出・吸収量の報告やカーボン・クレジット制度への活用を見据えて、海藻(うみくさ)藻場・海藻(かいそう)藻場(以下、藻場)による吸収量やそれを算定するために必要となる藻場の繁茂面積を、高精度かつ効率的に把握・管理するシステムを開発中。
- 同システムが本格的に運用されるまでの間においても、環境データを活用した我が国の沿岸域における藻場の繁茂面積の推計手法を活用し、藻場による吸収量を可能な限り早期に温室効果ガス排出・吸収量として報告できるよう支援。

ブルーカーボン高精度データ把握・管理システム開発の内容

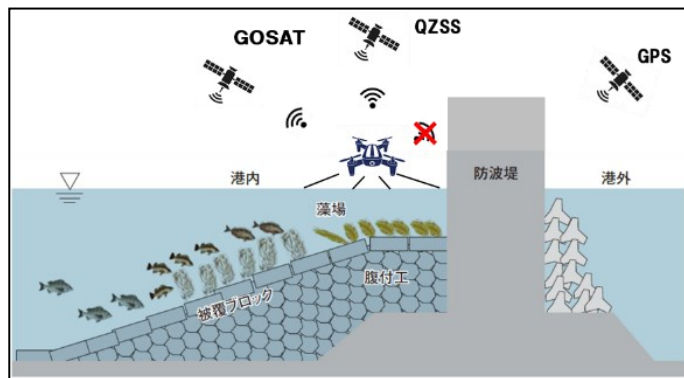
- ・水中透過性の高いグリーンレーザーを搭載したドローンの開発
- ・準天頂衛星等の測位技術を活用した高精度の計測方法の確立
- ・取得データを自動的にデータベースに集約するシステムの構築

(開発スケジュール)

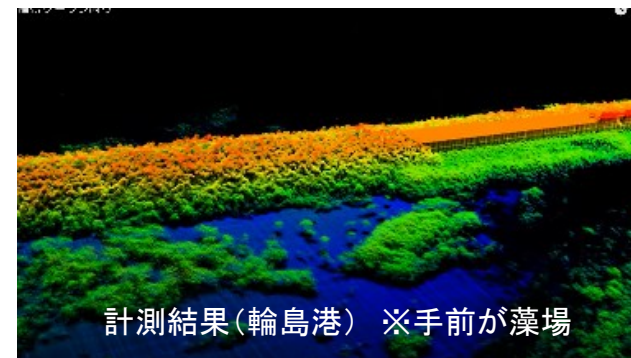
- ・令和5年度までに試作機を開発し、現地での実証等を実施
- ・令和6年度はシステムの構築、今後の運用方針の検討等を実施予定



港湾区域内の藻場等の生息箇所イメージ(高知港)



準天頂衛星を活用したブルーカーボン観測イメージ



計測結果(輪島港) ※手前が藻場



グリーンレーザー搭載
ハイブリッドドローン試作機

準天頂衛星(QZSS)

(補足衛星数の増加により、測位精度を確保)

GPS衛星

(補足衛星数が少ない場合、測位精度が低下)

衛星(GOSAT)

(温室効果ガス観測技術衛星)